

PoC スコープ外の整理

与信審査AIエージェント PoC / 完了条件の確定に向けた確認資料

作成日	2026年9月1日
対象資料	20260807_プレミアグループ様AI与信ご提案資料.pdf / PG視察2 文字起こし / 2026-09-01 ミーティング議事録
目的	10月末をもって「PoC完了」と判断できる状態にするため、範囲に含まれないものを事前に整理する

凡例 — **重要** 文面に明記しておきたい項目。 **要確認** 一次情報での確認を要する項目。

1. 整理の方針

除外項目は列挙しようとする限りなく増えます。そのため本資料では、まず「PoC完了とは何を示せた状態か」を積極的に定義し、そのうえで誤解が生じやすい項目のみを除外として明示する順序を取ります。

あわせて、ご提案資料には既に「次期以降・時期未確定」「別ライン」「今回スコープ外」という区分が置かれています。除外項目の相当部分はこれを参照することで足り、新たな主張を立てる必要がありません。

2. 通過条件ごとの判定範囲

除外リストよりも、この表が「終わったかどうか」を判定します。ご提案資料に挙げられた3つの通過条件について、PoCで到達する地点と、そこに含まれないものを分けたものです。

通過条件	PoCで実施すること	PoCに含まれないこと
調査精度	サンプル N 件において、AIの調査結果が審査担当の再調査と一致することを確認する	全件における精度の保証／精度改善の反復（チューニングサイクル）
処理時間 1件1～2分	単件での計測、および3調査の並列実行が成立することの確認	実運用相当の負荷試験（1日約1,200件規模）、およびピーク時の性能保証
誤実行ゼロ	「通知のみ」運用 N 件において、検出漏れが発生しないことを確認する	本番運用における誤実行ゼロの保証

Nの確定をお願いしたい理由

上表の N が数値で定まっていない状態では、通過条件そのものが判定不能になります。「誤実行ゼロ」は本来、試験によって証明できない性質の命題であり、何をもって満たしたと見るかを先に決めておく必要があります。

3. スコープに含まれないもの

A. 運用・保守

- ・ **重要** 運用工数（当番・オンコール対応を含む）

- ・ **重要** 運用に関わるログを閲覧するためのツールの開発
- ・ 監視・アラートの設計、SLO／SLAの定義
- ・ オンコール体制およびエスカレーション経路の整備、障害対応手順の策定
- ・ バックアップ・復旧（DR）、RPO／RTOの設計
- ・ ランブック・運用マニュアルの作成
- ・ プレミアグループ様のご担当者への引き継ぎ・教育

B. 品質・非機能

- ・ **重要** 本番相当のUI
- ・ **重要** 実運用相当の負荷試験、およびピーク時の性能保証
- ・ 可用性設計（多重化・フェイルオーバー）。1～2分という要件は性能に関するものであり、可用性は別の設計事項となります
- ・ 再試行・冪等性の完全な実装（部分失敗からの復旧）
- ・ セキュリティ試験（侵入試験・脆弱性診断）
- ・ 監査証跡の設計

C. コンプライアンス・ガバナンス

- ・ **重要** 個人情報情報の取扱いに関する社内規程の確認、およびコンプライアンス承認の取得
- ・ CIC規約上、外部委託が可能かどうかの確認
- ・ 再委託の承認手続
- ・ 保存期間・削除ポリシーの策定

D. 既存システム側の改変

- ・ WINGsの改変（ご提案資料に「既存システムは改修しない」と明記されています）
- ・ **重要** グレード入力の必須化、および販売管理システムとの連動仕様の変更
- ・ DataRobotのモデル改善（ご提案資料において「別ライン」とされています）
- ・ 振り分け君（RPA）の改変。トリガー通知を追加する場合、その実装および試験の担当は別途の取り決めが必要です **要確認**

E. 機能範囲

- ・ **重要** 2026-09-01のミーティングにて合意した4項目（個人名・会社名・電話番号・車両相場）以外の調査
- ・ 受入照合のうち、ペーパーレス以外の案件。視察では紙が約85%との説明がありました（39:16） **要確認**
- ・ 判断支援（審査項目の自動化、一次案および根拠のドラフト提示） — ご提案資料では次期フェーズ
- ・ リセールバリュー（3年後の予想価格）の算定 — ご提案資料では次期以降・時期未確定
- ・ 属性 × 車種のリスクスコアリング — 同上
- ・ 所有権解除 — ご提案資料に「今回スコープ外」と明記
- ・ 回答通知（LINE Works）の文案自動生成 — ご提案資料では次期フェーズ
- ・ 審査ログを用いた学習およびモデル構築 — ご提案資料では Phase 3 以降

F. インフラ・環境

- ・ プレミアグループ様側の環境構築（AWSとオンプレミスの接続、調査用インターネット接続）

- ・個人情報情報を扱うセグメントと外部アクセスセグメントの分離設計の構築および承認
- ・ **重要** 本番環境の構築および移行。PoC環境と本番環境は同一ではありません
- ・Wings専用端末の調達・管理 **要確認**
- ・費用設計（Bedrock呼び出し費用の月次規模の見積り）

G. プロジェクト運営

- ・UAT（利用者受入試験）の設計および実施
- ・データ移行
- ・導入教育および現場展開

4. とくに文面に残しておきたい5件

上記のうち、認識の相違が生じやすい順に5件を挙げます。他の項目は「その他、本資料に定めのない事項はスコープ外とする」で足りります。

#	項目	理由
1	負荷試験	通過条件が「1件1～2分」である一方、ご提案資料のPoC検証は「サンプルPDFで通して検証する」となっています。サンプルで1～2分を満たすことと、1日約1,200件の実負荷で満たすことは別の事柄です。ここを定義しないままでは、「PoCを通過したので本番も可」という理解と、「実負荷で満たせないで未達」という理解が正面から対立します。
2	個人情報のコンプライアンス承認	これが得られない限り本番稼働には至りません。またPoCにおいて実データを使用するのか、ダミーデータを使用するのかも現時点で確定していません。設計・レビューの担当として構成の可否を判断する権限は持たないため、承認の取得自体がスコープ外であることを明確にしておきたく存じます。
3	誤実行ゼロの保証	これは除外というより定義の問題です。「ゼロ」は試験によって証明できない命題であるため、何を満たせば合格とするかを先に定め、そのうえで「本番運用における誤実行ゼロを保証すること」は範囲外とする必要があります。
4	グレード入力の必須化	車両相場の判定がこれに依存します。視察では、2016年頃に販売管理システムとの連動のためグレード入力を必須から外したことが、人手によるWeb検索の原因であると説明されました（10:47～13:15）。これはプレミアグループ様側の業務ルールの変更であり、当方では実施できません。必須化されない場合、車両相場調査の前提そのものが変わります。
5	4項目以外の調査	2026-09-01のミーティングで4項目に限定することを合意しましたが、視察においては現場よりリセールバリューに関する要望が相当の時間をかけて語られていました（51:15～54:31）。要望として再度挙がる可能性があるため、合意した範囲を文面で固定しておきたく存じます。

5. 前提条件の取扱い

スコープ外の項目のうち、いくつかはPoCの成立自体に影響します。とくにグレード入力の必須化は、車両相場調査の前提です。

前提が満たされない場合の扱い

前提条件が満たされない場合、当該項目をスコープから除外する旨を定めておく必要があります。この定めがない場合、前提の不成立が当方の未達として計上されることになります。

6. 条文案

ご参考として、業務仕様書等に記載する場合の文面案を挙げます。

本件PoCの範囲

1. 本件PoCの範囲には、次の各号を含まない。
 - (1) 運用工数、運用監視、障害対応、および運用に関わるログを閲覧するためのツールの開発
 - (2) 本番相当のUI、ならびに本番環境の構築および移行
 - (3) 実運用相当の負荷試験、およびピーク時の性能保証
 - (4) 個人情報情報の取扱いに関する社内規程の確認およびコンプライアンス承認の取得
 - (5) グレード入力の本須化その他、プレミアグループ様の既存システムおよび業務ルールの変更
 - (6) 別途合意した4項目以外の調査、および受入照合のうちペーパーレス以外の案件
 - (7) ご提案資料において「次期以降」「別ライン」「今回スコープ外」と記載された事項
 - (8) その他、本仕様書に定めのない事項
2. 前項第(5)号に掲げる前提が満たされない場合、当該前提に依存する項目は本件PoCの範囲から除外する。
3. 通過条件の判定方法および判定に用いる件数は、着手前に甲乙間で書面により確認する。

第1項第(7)号はご提案資料を参照する形式としているため、個別の列挙を要せず、範囲の解釈も資料に委ねられます。第3項が、本資料でご確認をお願いしたい中心の事項です。